

## オオハンゴンソウ

ウェットランドの駐車場付近で、今年もまたオオハンゴンソウが咲きました。環境省から「特定外来生物」に指定されているので、草刈り前にできるだけ抜くようにしています。ただし、根や地下茎はほとんど残ってしまい、再生状況は刈り取りと大差ないようです。この点は、以前にお伝えしたオオキンケイギクとは大違い。こちらは、抜けば着実に株数が減少し、土壌によっては一度でほぼ根絶ということも考えられます。



さて、今回の話題はオオハンゴンソウ。別名をルドベキアといいます。ドキッとした方はいらっしゃいませんか。ルドベキアと呼ばれる観賞用の花は広く出まわっていて、のぞみが丘のあちこちのお庭にもよく見かけるからです。オオハンゴンソウそのものが植えてあるお庭は見たことがありませんが、念のために上の写真と比べてみてください。

どうしてこんなややこしいことになるのかというと、ルドベキアが総称だからです。オオハンゴンソウの学名を書きだすと *Rudbeckia laciniata*。前半は属の名まえで名字のようなもの。後半が種の名まえで、これが違えば別種です。ではなぜ観賞花に属名のカタカナ読みを使うのかというと、園芸品種は同属別種を交雑してつくることが多く、品種名が確定するまでは属名で呼ばれるため、そのうち原種もひっくるめて総称されてしまうようです。ややこしや。